

6. 食器や容器のリユース

多くの自治体で陶磁器は燃えないゴミとして回収された後は最終処分場へ埋め立てられているのが現状です。NPO 法人日本ワンディッシュエイド協会では、家庭でいらなくなった食器を集めて必要な人に再利用（リユース）してもらうことにより最終処分場へ埋め立てられるごみの減量を推進する取り組みを行っています。

この不用な食器のリユースは「もったいない食器市」として地域に広がり、運動がスタートした奈良県生駒市では市の事業として市民に定着しています。

この団体は、いらなくなった食器のリサイクル材料を使って再生菓子容器を作り、全国のお菓子屋さんに使ってもらえるよう働きかけをしています。



▲ もったいない食器市の様子



▲ 再生材料が 20% 配合された再生菓子容器

デポジット

この団体は、お菓子屋さんに再生菓子容器を使っただけに陶磁器のごみが出てこないようにお店の方にデポジット運動への参加を呼びかけています。

デポジットとは、お店で商品を購入したときに容器の保証金も併せて支払い、使用後の容器を販売店へ持ち帰ると容器の保証金が払い戻されるという仕組みです。

身近なところでは、牛乳びんやビールびんがこのような仕組みになっています。消費者が容器を販売店へ持ち帰ることにより容器ごみの発生抑制（リデュース）がされ、返却された容器を再利用（リユース）することにより、さらに環境に優しい仕組みとなっています。



▲ デポジットを呼びかける店内ポップ

この取り組みは2009年容器包装3R推進環境大臣賞優秀賞を受賞しています。